

令和３年度第２回富山市通学区域審議会 議事概要

開催日：令和３年１０月２９日（金）

開催時間：１９時～２０時５５分

開催場所：Toyama Sakuraビル５階大会議室

出席委員：中村会長、品川副会長、石動委員、江尻委員、菊川委員、
國香委員、斉藤委員、笹田委員、城岡委員、高木委員、
藤田委員、堀田委員、松井委員、吉田委員、渡辺委員
計１５名

※第２回審議会における審議内容の最終的なとりまとめは、第５回審議会にて行います。

【司会】 令和３年度第２回富山市通学区域審議会を開催いたします。
委員１５名全員が出席しているため、富山市通学区域審議会
条例第６条第２項の規定により、審議会は成立している。

《議事（１）会長提案》

【中村会長】 （議論の進め方について説明）
議論の進め方について、質疑・意見等があるか。
（異議なし）

【中村会長】 異議なしと認める。よって審議は提案どおり進める。

《前回審議会における質問への回答》

【中村会長】 前回審議会における質問３件について、事務局から回答を求める。

【学校再編推進課長】 現在、通学距離が３kmを超えているかどうか分かる資料はあるのか（中村会長）について、令和３年８月末現在の住民基本台帳に基づき算出したところ、通学路ではなく、道路距離に基づく参考値ではあるが、通学距離が３kmを超えて通学

している児童生徒数は全体で４１０人である。

なお、令和２年度に各学校において、徒歩やスクールバス、自転車を利用し、最も遠くから通学している児童生徒を調査した結果によると、体格差、年齢差、道路状況など諸条件によって差異はあるが、通学距離順で見ると、小学校では、徒歩３．５km、３５分、スクールバス９．５km、３２分だった。中学校では、徒歩３km、３６分、スクールバス１７km、３０分、自転車８．５km、４５分だった。

通学時間順で見ると、小学校では、徒歩６０分、２．９km、スクールバス３２分、９．５kmだった。中学校では、徒歩３６分、３km、スクールバス４５分、１２．２km、自転車４５分、８．５kmだった。

次に、中山間地域・豪雪地帯への配慮といった観点からも、通学時間について記載をしてほしい（江尻委員）について、先ほどの説明でも述べたが、通学時間は、小学校では、徒歩６０分、２．９km、スクールバス３２分、９．５kmだった。中学校では、徒歩３６分、３km、スクールバス４５分、１２．２km、自転車４５分、８．５kmだった。

学校再編推進課では今年９月、大山地域、婦中地域、山田地域、細入地域で運行しているスクールバスに乗車してきたが、現時点ではいずれの地域も、望ましい通学時間内だった。

再編の組合せによっては、通学距離や通学時間がさらに延びる場合が十分に考えられる。委員御指摘のとおり、各地域の状況も踏まえつつ、子どもたちの負担が少しでも軽減されるよう検討するとともに、望ましい通学距離や時間を超過するケースが出てきた場合には、委員の皆様にお知らせしてまいりたい。

次に、富山市津波ハザードマップは検討材料になっているのか、再編後の避難所指定について総合的に判断する必要がある（笹田委員）について、現時点において富山市津波ハザー

ドマップにおける指定緊急避難所に指定されている学校は、岩瀬小学校、浜黒崎小学校、大広田小学校、萩浦小学校、四方小学校、草島小学校、倉垣小学校、水橋中部小学校、水橋西部小学校、水橋中学校の10校となっている。このうち再編対象校は、岩瀬小学校、浜黒崎小学校、四方小学校、草島小学校、倉垣小学校の5校である。

再編後の避難所指定については、学校施設の活用も含め、市民の皆様が安全・安心な生活を送ることができるよう、災害の種類にかかわらず、防災担当部局等、関係部局と連携し、検討してまいりたい。

【中村会長】 回答について質疑等があるか。

(質疑なし)

【中村会長】 前回審議会における質問2件について、事務局より回答を求める。

【学校教育課長】 コミュニティスクールについて、地域連携の観点から、義務教育段階で今育んできているものをどのように動かしていくのか、行政サイドが今どのように考えているのか、地域の方からどのような声が上がっているのか(藤田委員)について、本市においては、今年度新たに小学校3校を加え、小学校8校、中学校5校、計13校において学校運営協議会制度、いわゆるコミュニティスクールを導入している。

コミュニティスクールを導入した学校からは、学校の課題を地域住民や保護者と共有し、子どもたちのために何ができるのかを考える機会が増えることで、学校と地域、保護者の一体感が深まった、学校行事への支援、地域と連携した挨拶運動など、地域人材の参画を通して、地域の学校を支援しようとする機運が高まった、子どもが地域住民と交流することで地域への関心を高め、地域の人々との関わり合いの大切さに理解を深めたなどの報告がされており、学校名の改善・充実や、風通しのよい学校づくりというコミュニティスクール本

来の目的にかなった成果であると考えている。

市教育委員会としては、令和4年4月を目途に、各学校、地域の状況を考慮しながら、市内小・中学校にコミュニティスクールを広く設置する方向で準備を進めている。

本市における学校再編後のコミュニティスクールにおいては、再編前の各校区の委員の中から選ぶ、統合された校区全体の中から委員を選出するなど、各学校の実態、地域の特色や要望に応じて決めていくことが望ましいと考えており、場合によっては、これまでと同様に、学校評議員数を維持していく選択肢もあると考えている。今後とも、必要に応じて各学校からの相談に対応しながら設置を進めていきたい。

次に、どこの小学校から何人どこの中学校に進学しているという現状を提示してほしい（堀田委員）について、学校選択制により、校区外の中学校へ進学する生徒の多くは、当該中学校に設置されている部活動への入部を希望する理由や、仲のよい友達と共に進学を希望する理由がほとんどだが、中には、不登校、いじめ、虐待や家庭の問題などの理由もある。

どこの小学校から何人どの中学校に進学したかという情報が公開された場合、例えば、A小学校から1人だけB中学校へ入学したケースにおいては、個人が特定されるとともに、その理由も明らかになるおそれもあることから、個人情報保護の観点から公表できない。学校選択制の結果の公表は、それぞれの中学校に校区外的小学校から入学した人数のみとしており、出身小学校は公開していない。

【中村会長】 回答について質疑等があるか。

(質疑なし)

《議事（2）事務局説明（富山中央）》

【中村会長】 再編原案（富山中央）について事務局から説明を求める。

【学校再編推進課長】 （再編原案（富山中央）について説明）

《議事（３）意見交換（富山中央）》

【高木委員】 いずれの案も、統合する前から従来通うはずであった中学校に進学する案であるということによいか。また、少人数指導などのため教室は幾つか（余裕が）あったほうが良いと考えるが、統合後の教室の空きがない状況のときには、増築という形になっていくのか。

【学校再編推進課長】 １点目については、委員のおっしゃるとおりである。
２点目について、再編について保護者や地域の方の合意が得られた段階で教室が不足するのであれば、増築も含めて検討する。また、少人数指導、配慮が必要なお子さんの状況など年度によって変動すると思われるので、そのことも含めて検討していく。

【渡辺委員】 富山中央-１、富山中央-２と富山中央-３（１）と富山中央-３（２）は、この２つで１案という認識によいか。

【学校再編推進課長】 ２つで１つの案である。

【渡辺委員】 富山中央-１、富山中央-２は柳町小学校の児童数が１５７名だが、富山中央-３（１）と富山中央-３（２）の児童数を足しても１５７名にならない。この足りない分の児童は、どこか別の小学校に行くなどの対応になるのか、児童数が間違いなのか。

【学校再編推進課長】 富山中央-１、富山中央-２は令和３年５月時点の児童数だが、通学区域を変更するもの（富山中央-３（１）（２））は、住所の確認のため、令和３年８月時点であることから、数字が若干ずれる場合もある。１人、２人がどこか違う学校に行くということではない。

【堀田委員】 現在、柳町小学校の児童は中学校進学時、住んでいるエリアによって東部中学校と奥田中学校に分かれるという認識によいか。

【学校再編推進課長】 委員のおっしゃるとおりである。

【國香委員】 富山中央-１では４つの中学校に進学するので、子どもたちの

心の負担、寂しさという点で不安を感じる。

富山中央-2も同様に、一部の子どもたちだけが東部中学校へ進学し、多くは奥田中学校に進学する。学校選択制があるので、そこにこだわらなくてもよいのかもしれないが、子どもの立場になると、別れが辛いということがある。

富山中央-3（１）（２）は逆に、友達と同じ中学校へ進学できるというメリットがあると思う。例えば、５年生から６年生になるときに統合があったとすれば、１年早く進学先の中学校の友達と一緒に過ごして学習できる環境となると考えれば、安心感にもつながるかと思う。また、通学距離が３km以内となり、徒歩で通うことができる。課題として、柳町小学校区が２つに分かれるため、地域の理解を得る必要がある。

【斉藤委員】 西田地方小学校、堀川小学校、蜷川小学校の一部が統合して光陽小学校が開校した際、堀川中学校に勤務していた。当時は旧堀川小学校区や旧蜷川小学校区の児童は堀川中学校に進学すると思っていたが、南部中学校に自転車通学が導入され、光陽小学校卒業生はすべて南部中学校に進学することが決定された。遠くても一緒にの学校に通わせようという地域の思いが尊重されたと思われる。合理的には、富山中央-3（１）（２）がよいと思うが、柳町小学校区が２つに分かれたほうがいいのかということについては、地域には違った思いがあるかもしれないので、慎重に審議するのがよいと思う。

【笹田委員】 子どもの負担を考えると、通学距離が３km以内になる富山中央-3（１）（２）が非常にいいと思う。一方、富山中央-1、富山中央-2に通学距離が３km以上になる子どもが３人、２人と出ているが、あまりに遠いとかなり難しい案だという気がする。具体的な距離が分かっていたら教えてほしい。

【学校再編推進課長】 算定はしているが手元にないので、後日お示ししたい。

【中村会長】 今後、恒常的に２，３人ぐらいの規模の通学距離が３kmを超える児童がいると考えられる地域であるということによいか。

- 【学校再編推進課長】 おっしゃるとおりである。
- 【藤田委員】 地域の想いはデータだけでは判断も難しいところがあるので、数字、データの事だけでなく、現時点でどのぐらい地域の想いや理解を把握しているのかをもう少し詳細に教えてほしい。地域との連携には、将来の地域の担い手を育んでいくという観点も入っている。学校社会だけではなく、これからの人生の歩み方、地域の人材の育成、地域の中での生き方など、義務教育の段階はとても大切な時期である。
- 【中村会長】 まずは、先ほど示した進め方に沿って我々は答申をし、教育委員会で（再編計画を）つくった後、地域と議論する中で、委員が御指摘されたところは、最終的に非常に大事になってくるかと思う。現段階でとりわけ我々が聞いておいたほうがいいことはあるか。
- 【学校再編推進課長】 具体的に再編原案を各校区に示したことは今までない。和合地域にはたまたま、第1回審議会が終わった後に出前講座があり、再編原案について説明したが、その時点では、具体的な思いは特に聞いていない。現在実施しているパブリックコメントについては、第4回審議会にてお示ししたい。
- 【江尻委員】 地域はもちろん、学校にも歴史や文化があり、住んでいる方しか分からない悩みもあると思う。先日の市建設課の除雪会議における意見も、地域によってばらばらだった。適正な数値で判断されているとは思いますが、富山市は大変広いので、住民感情を踏まえると、一般論として発言するのはよいが、他地域のことについて発言するのは難しい。中学校進学先という、中央には中央の悩みがあるんだなというのは私なりに感じたところである。
- 【斉藤委員】 江尻委員の言われることは全くそのとおりだと思う。来年4月に開校する八尾地域統合中学校の場所について各小学校区を回って説明会を行った当時、私は教育委員会事務局におり、各地域の方々のいろんな意見を聞いた。声高に言われる方に

感化され、この地域はこういう考え方なんだと思ったが、ある小学校での説明会の終了後、当時の教育長の周りに若いお母さん方が5、6人集まってきて、実は違う、私たちは一年でも早く統合してほしいと言われるのを横で見っていた。年代によって違った考え方もあるのだなと思ったので、なるべく地域の方々の意見を聞くことは大事だと感じた。

【中村会長】 審議会としては、子どもたちの教育環境を将来的にも担保していくという立場から、どの案が望ましいか、考えの方向性、メリット、デメリットなど、地域の方への的確な判断材料を提供していくことが大事であると思う。

地域の方と、進学先中学校、通学距離、校舎など様々な観点で議論を進める中では、広く意見を聞くことは重要である。

【宮口教育長】 中学校の学校選択制は学級数が増えない範囲で募集するため、教室の過不足（への影響）は心配する必要はないが、文科省による学級人数の見直しによって学級数が増えることもあり得る。2学級の合同体育などを実施すれば集団活動は支障ないと思うが、教室数の不足も出てくるといったことも注視しながら、審議会からいただいた御意見を踏まえつつも、今示している資料を一部修正しなければならない場面が出てくる可能性があり、柔軟に対応していく。

【中村会長】 富山中央-1、富山中央-2で通学距離が遠くなる児童への対応策は、具体的にどういったものが考えられるか。

【学校再編推進課長】 これまでの例として、水橋地区の一次統合では、上条小学校の児童が三郷小学校に行くことになっているので、上条小学校まではこれまでと同様に徒歩で通学し、そこからスクールバスで三郷小学校に行くことを考えている。また、人数により、スクールバス、借り上げタクシーなど合理的な方法を検討する。

【高木委員】 光陽小学校の卒業生が南部中学校に入った最初の子どもたちを受け持った。当時の子どもたちは、南部中学校ではなく堀

川中学校で会いましょうと学校を分かれて来ていたので、がっかりしていた子どももいたが、光陽小学校全体が南部中学校に進学することで、みんなで南部中学校へ行くという意識に変わり、中学校への所属感を感じられるようになったのではないかと感じたので、みんな一緒に同じ中学校へ進学する富山中央－３（１）（２）がいいと思う。

また、特別支援学級、少人数教育クラスの定数が変わることなどを想定したときには、教室数に余裕があるほうがよい。

【中村会長】 進学先中学校、教室の不足状況、通学距離の問題等を考えると、富山中央－３（１）（２）が合理的あるいは望ましいという形で整理してよいか。

【石動委員】 それでよいが、富山中央－３（１）で柳町小学校区の児童が奥田小学校に通う場合、線路を挟んで通学することになるが、小学校１年生の子どもが歩くということを踏まえても特に支障ない通学路なのか。

【学校再編推進課長】 少なくとも、奥田小学校区と柳町小学校区の境までは、新たに何らかの通学路の確認をする必要があると考えている。

【笹田委員】 私も富山中央－３（１）（２）が一番よいと思うが、地域の方がどう考えるかという点で、同じ地域の子どもたちは同じ小学校に通わせたいということを希望するのであれば、富山中央－３（１）（２）に準ずるものとして、富山中央－１も残しておいてよいのではないか。

【藤田委員】 地域に示す際には、審議会では富山中央－３（１）（２）がいいという意見が多かったと示したうえで、富山中央－１も提示することで、地域の方々の考える幅が広がり、理解、納得いただけるのではないか。

【中村会長】 富山中央－３（１）（２）は、適正規模を長期的に維持し、教室数も余裕があり、通学距離が３kmを超える児童がいないことがメリットとして考えられる。小学校段階は地区で同じ小学校に通うことが望ましいというのであれば富山中央－１が

よいが、進学先中学校が分かれるのは子どもの負担になるかもしれない、また通学距離が3kmを超える児童も出てくるので、何かしらの対策が必要である。富山中央-2は、教室の不足が続き、通学距離が3kmを超える児童も出てくるため、懸念材料が多い。このように整理し答申としてまとめるという形でよいか。

【堀田委員】 恐らくどの地域も、自治振興会のつながりは中学校のブロックごとにあると思われ、中央小学校と統合する富山中央-1を示すと、現在つながりのない自治振興会と統合するというところで、奥田小学校や東部小学校とは統合にはならないのかと聞かれると思う。奥田小学校と統合することが難しい理由として、奥田小学校と統合した場合は大規模になることを、富山中央-2で示した方がよいのではないか。

【中村会長】 今ほど委員がおっしゃったところも富山中央-2の懸念材料として考えられる。合理的に考えれば富山中央-3(1)(2)がよい。地域の考えを考慮すると富山中央-1という選択肢もあり得るが、問題点もあるという形で、一旦整理をする。

《議事（2）事務局説明（富山西部）》

【中村会長】 再編原案（富山西部）について事務局から説明を求める。

【学校再編推進課長】 （再編原案（富山西部）について説明）

《議事（3）意見交換（富山中央）》

【中村会長】 通学距離が3kmを超える児童が全体の55%だが、どのような対策を取ることを考えているか。

【学校再編推進課長】 神明小学校区から五福小学校に行くには、公共交通機関、バスがないため、スクールバスを走らせる必要があると考えている。その際、3kmを超える児童だけを対象とするのか、上条小学校のように、神明小学校の児童全員対象にするのかは検討が必要になる。

- 【中村会長】 現在、五福小学校に通学距離が3 kmを超える児童はいるのか。
- 【学校再編推進課長】 8人いると見込んでいる。
- 【中村会長】 そうすると、スクールバス等に対応する場合、現在五福小学校に通学する児童とどのような形で調整していくかも考えていかなければならない。
- 【城岡委員】 神明小学校の児童の大多数の通学距離が3 kmを超えるのは、鵜坂地区とつながる居住誘導地域に多くの児童が住んでいること、五福小学校が移転したことによるのではないかと。鵜坂小学校と統合するのは、大規模になり、また地域生活圏が異なるため難しいのではないかとと思われる。羽根地区から神明小学校へ向かうルートに大多数の児童が居住していると思うので、その道を通るスクールバスの運用により、通学距離の問題は解決できるのではないかと。
- 【中村会長】 通学手段の確保が最も大切な問題になってくる。スクールバスにしても、ルートの選定、集合場所など、地域の方々にはしっかりと説明をしないと、なかなか理解を得るのは難しいと思う。
- また、地域生活圏をまたいだ鵜坂小学校との統合を原案にて検討していないのはなぜか。
- 【学校再編推進課長】 神明小学校と鵜坂小学校では進学先中学校が異なるためである。仮に地域や保護者の方からより近い鵜坂小学校に行きたいという話が出てくれば検討するが、まずは14地域生活圏内で検討するという考え方に基つき、富山西部地域内で検討をしている。
- 【國香委員】 例えば、羽根地区から鵜坂小学校（約1.7 km）、有沢地区から光陽小学校（約1.7 km）は徒歩圏内で、歩けば体力向上につながる。スクールバス等の配慮をしたうえで五福小学校との統合というのは一つの案だが、安全な通学路が確保できるのであれば、特殊事情として、羽根地区、有沢地区に居住する児童に通学する学校を選択できる余地があるとよい。

- 【中村会長】 委員から提案のあった仕組みは構築できるのか。
- 【宮口教育長】 居住する校区の学校へ行くのと、隣接する他校へ行くのを比較した場合に、隣接校へ通った方が非常に近くなる地域については、弾力的に通学する学校を選択できる地域が現在もあり、地域の意向を確認しながら弾力的に進めることはできる。ただ、基本的な考え方として、同一地域生活圏内で、進学先中学校を考慮した案を示している。
- 【吉田委員】 34ページの中学校生徒数の推移について、令和2年から令和7年度にかけて、他地域とは違い、生徒数が増えているのはなぜか。
- 【学校再編推進課長】 人口推計は、過去5年間のそれぞれの年度の変化を1年ごとに追った平均、女性の数等から、算出している。若い女性が多く在住しているなどの地域特性により、一時的に増える場合もある。
- 【中村会長】 委員が疑問に思ったのは、現在の小学校の児童数（実績値）と、その児童が中学生になる頃の生徒数（推計値）の間に開きがあるからだと思うが。
- 【大久保次長】 西部中学校区には富山大学附属中学校も存在し、本来は西部中学校に行く生徒の一部が富山大学附属中学校に進学するため、令和7年以降はこの推計値よりも下回ると推測する。
- 【斉藤委員】 学校選択制も加味されていないのではないか。
- 【中村会長】 通学距離が3kmを超える児童が過半数であるため、スクールバスやそのルート等について工夫すること、また通学距離によって隣接する他校への通学も可能とするといった弾力的な運用を検討するなど、丁寧な対応が求められるが妥当な案であると整理してよいか。

（異議なし）

《議事（２）事務局説明（富山東部）》

【中村会長】 再編原案（富山東部）について事務局から説明を求める。

【学校再編推進課長】 （再編原案（富山東部）について説明）

《議事（３）意見交換（富山東部）》

【笹田委員】 富山西部地域にも共通するが、小学生の間はスクールバスで通学し、中学生になると自転車通学に切り替わることが想定される。既にスクールバス等を利用している地域もあると思うが、そこも中学生は自転車通学になっていくのか。

【学校再編推進課長】 冬期間や雨天時の自転車の利用は通学の安全上も問題があると思うので、小学校のスクールバスに中学校の生徒が乗るのは、ルートが少し延びることも考えられ検討が必要になると思うが、決して駄目ではないと考えている。

【笹田委員】 柔軟に対応できるということか。

【学校再編推進課長】 おっしゃるとおりである。

【國香委員】 太田小学校の児童数は、令和７年度は２０１人、令和１２年度は２０５人となっており、２００人という学校規模だと、全学年単学級とならない可能性もある。令和１７年度以降は全学年単学級になると思うが。今後太田小学校が全学年単学級とならなかった場合、全学年単学級という基準、統合時期等、どのように考えているか。

【学校再編推進課長】 現時点では、令和３年５月時点で複式学級、全学年単学級である学校を再編対象校として選定し再編原案をつくっており、おっしゃるとおり、今後全学年単学級ではなくなる場合もあるかもしれないが、再編対象から外すかどうかはまた別の議論である。再編は話合いに時間がかかるものであることも含めて、説明していく必要があると考えている。

【中村会長】 現時点で全学年単学級であり、一時的に回復するかもしれないが、児童の減少が続き、長期的には全学年単学級になるこ

とが避けられないからこそ、このタイミングで再編あるいは統合を議論しているということは、意を尽くして説明しなければならない。

施設の健全度でCがついているところがあるが、これは長期的に小学校を運営していく上で大丈夫なのか。

【学校再編推進課長】 施設の健全度は令和3年3月時点で判定したものであり、CやDという評価になっていても、直ちに修繕が必要ということではない。もし再編をしてこの学校を使っていくということになれば、改修することになると思う。また、その前に不具合が出た場合には、それぞれの年度で改修を行っていくことになると思う。

【中村会長】 通学距離が3kmを超える児童に対する対応を丁寧にしていくこと、一時的に全学年単学級でなくなるかもしれないが長期的には全学年単学級は避けられないことを鑑み、この案は妥当であると評価してよいか。

(異議なし)

【中村会長】 富山中央・富山西部・富山東部の審議を終了する。
第4回の審議時に本日の振り返りを行う。あわせて、パブリックコメント、市議会議員からの意見についても情報提供を求める。

【斉藤委員】 富山中央地域について、柳町小学校が奥田中学校と東部中学校に進学することから、地域生活圏は異なるが、東部小学校に統合する案を確認し、再評価したい。

【学校再編推進課長】 第4回審議会にて示すことは可能である。

【中村会長】 委員の提案について、異議はあるか。

(異議なし)

【中村会長】 最後に、事務局から連絡事項等あるか。

【学校再編推進課長】 (連絡事項)

【中村会長】 議事を事務局に返す。

《閉会》

【司会】 第2回富山市通学区域審議会を閉会する。

— 了 —